ツキノワグマのエサ資源調査(雄花の落下量調査)結果について

例年、人身被害の防止のため、ツキノワグマの秋の主要なエサ資源であるブナ科植物 (ブナ・ミズナラ・コナラ) の果実の豊作、凶作を予測することにより、秋のツキノワグマの出没傾向を予想している。エサ資源の事前予測については、ブナ科植物の雄花の落下数から推定している。







<調査結果>

		雄花落下数		内 訳					
樹種	事前予測	平均値 (個/㎡)	調査 地点	大凶作 ×	凶作	並作	豊作 ◎	大豊作	
ブナ	〇 並作	382	21地点	0	6	13	2	0	
	(× 大凶作)	(2)	(25地点)	(25)	(0)	(0)	(0)	(0)	
ミズナラ	◎ 豊作	499	24地点	0	5	4	2	13	
	(◎ 豊作)	(496)	(23地点)	(2)	(4)	(2)	(5)	(10)	
コナラ	〇 並作	560	30地点	1	10	14	5	0	
	(〇 並作)	(746)	(30地点)	(0)	(4)	(16)	(9)	(1)	

- ※調査市町:志賀町·中能登町·宝達志水町·津幡町·金沢市·白山市·能美市·小松市·加賀市
- ※事前予測は、調査地点全体の雄花落下数の平均値(個/㎡)で豊凶を判断
- ※各調査地点の豊凶判断は、1地点あたり5箇所を調査した雄花の落下数(個/㎡)で判断
- ※()内は、昨年の値

(樹種別豊凶判定基準)

(単位:個/m²)

樹 種	大凶作 ×	凶作▲	並作〇	豊作◎	大豊作 ◎◎
ブナ	30未満	30 ~ 200	200 ~ 900	900 ~ 1,700	1,700以上
ミズナラ	50未満	50 ~ 200	200 ~ 300	300 ~ 500	500以上
コナラ	50未満	50 ~ 200	200 ~ 1,000	1,000 ~ 1,900	1,900以上

[※]石川県林業試験場の研究結果による判定基準

今年度、ブナについて、新たにドローンを活用し、例年より早い4月に10地点で開花状況を調査し、並作以上の予想としたが、同様の結果となった。

8月には、樹上の果実を数える、より精度の高い「着果状況調査」を実施し、 豊凶状況を9月上旬には公表することとしている。

参考:近年の着果状況調査結果と令和3年雄花の落下数調査結果による豊凶状況(予測)

			各年度の着果状況調査(8月)における豊凶結果										R3.6	
区	分	H16※	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	雄花落下 数調査の 結果
ブ	ナ	×	×	00	A	A	A	0	•	0	0	•	×	0
ミズ	ナラ	×	0	0	0	0	0	0	0	0	00	•	0	0
コナ	トラ	×	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	•	0
目撃	件数	1,006	353 (43)	60 (27)	126 (43)	147 (95)	256 (79)	195 (71)	246 (137)	200 (105)	178 (110)	350 (153)	869 (147)	— (129)

凡 例 大 豊 作 ◎◎ 豊 作 ◎ 並 作 ○ 凶 作 ▲ 大 凶 作 ×

※H16は大量出没があったことから事後に緊急調査を実施

※()内は7月5日時点の目撃件数